

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名

熊本県 天草市

代表団体名

事業名称

地域活性化課題解決モデル「Webの駅」天草情報タワー

1. 事業実施概要

(1) 解決課題

天草市は、平成18年3月27日の10市町の合併以後、各地域課題を天草市単一の課題として解決する必要があるが生じている。具体的には、人口減少や生活圏拡大に伴う地元商店街での消費低下、豊かな自然やキリシタンの歴史がある一方での観光客数の伸び悩み、地域コミュニティ活動における温度差、市街地と山間部との間の情報格差の拡大などの課題がある。

(2) 実施内容

平成20年度においては、「天草市地域ICT利活用推進協議会」が主体となり、「観光ガイドシステム」、「商店街活性化システム」の機能を高めると共に、『地域を担う人づくり』として、将来の天草市を背負う子供たちの学校教育の充実を図るため、学校間、保護者間、校区内などでの情報交換、情報交流を可能とする「保・幼・小・中学校情報共有システム」の構築を行う。

また『快適な生活環境づくり』として、受診前の医療相談や保健師・栄養士のアドバイスによる生活習慣病などの予防対策、住民からの情報の取得や保健師・栄養士間のコミュニケーションを行える「健康天草支援システム」を構築する。さらに『魅力ある観光地づくり』を支援するため、都市部住民の長期滞在や定住の誘致促進するための「田舎暮らし応援システム」の構築を行う。

(3) 実施体制

構築するシステムに地域住民や関係利用団体等の意向を反映し、継続的な運営方策等の検討を行うため、地域団体、有識者等で構成する「地域ICT利活用推進協議会」を設置するとともに、本年度事業の庁内関係部署と定期的に連絡調整を図る。なお、平成20年度に構築するシステムは、多岐となるため、関係部署と協議・連携を図る部内検討委員会を庁内に組織し事業を推進する。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
会員登録数（H19 年度構築分）	14,000 人	14,783 人	○	データベースに登録された会員数、（なお、団体会員については、構成員数）
観光サイトへのアクセス数（H19 年度構築分）	4,500 人/月	6,038 人/月	○	直近 3 ヶ月間のアクセス数の平均
市内宿泊施設のシステム参加予定数（H20 年度構築分）	200 施設	12 施設	△	ヒアリングによる利用希望調査
商店街活性化システムへの店舗・団体数（H20 年度構築分）	700 店舗	56 店舗	×	Web の駅でホームページを作成している事業者数
幼稚園・保育園の参加予定者数（H20 年度構築分）	1,000 人	約 1,200 人	○	アンケート調査による利用希望調査（60%の利用希望）
保健師・栄養士の参加予定者数（H20 年度構築分）	100 人	約 38 人	×	アンケート調査によるパソコン操作可能者
システムサポートボランティア数（H20 年度構築分）	15 人	約 5 人	△	協議会メンバー

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

平成 20 年度は、構築するシステムが多岐に渡ったことから、仕様内容や運用体制等の検討に不足の期間を要したため、当初計画よりシステム開発に遅れが生じた。結果として、利活用する団体へのシステム操作説明等が十分にできず、一部目標を達成できなかった。

(1) 市内宿泊施設のシステム参加予定数

宿泊施設予約システムに対して要望はあるが、実際にシステムを見てからでないと運用がどの程度煩雑になるか判断できないので、システムが出来ていない現段階では判断が出来ないという意見が多かった。

今年度末にシステムを構築した後に利活用していただけるよう紹介していく予定であり、年度末での目標の達成は難しい。旅館組合の代表者との話では、利活用したいとの意向であるので、旅館業組合員が月 1 回集まる例会にシステム内容と操作方法等を説明し利活用していただけるようお願いする予定。

(2) 商店街活性化システムへの参加予定店舗・団体数

上記宿泊施設と同様に実際にシステムを見て、運用がどうなるかを判断して使用するということで、今年度中に目標を達成することは困難である。また、商店街の事業主は高齢者の方が多くパソコンの操作に不慣れであり、高齢者の方のパソコン操作技術の向上やサポートボランティアの整備など Web の駅を利用できる環境整備が必要となる。

(3) 保健師、栄養士の参加予定者数

保健師、栄養士ともに高齢者が多く、パソコンの操作に不慣れであり、高齢者の方のパソコン技術の向上やサポートボランティアの整備など Web の駅を利用できる環境整備が必要となる。

(4) システムのサポートボランティア数

現状でシステムのサポートボランティアは存在しておらず、今後整備する必要がある。Web の駅のシステムの構築と並行して整備していくとともに、Web の駅内で募集することを当初検討していたが、システムの構築の遅れもあり、整備できていない。

＜委託業務説明書＞

1 平成20年度事業実施において明らかとなった課題

- ・システムを新たに導入する場合、管理者側と利用者側の区分を明確し、検討を行う必要がある。そのためには、システムのプロトタイプを早期に構築し、協議を深める必要がある。
- ・各システムの内容を詳細に検討するため、分科会を組織して協議を行ったことで、各システムの必要な機能は把握できたが、管理・運用者の選定等、運用面の協議では、どのような負担が発生するのか、実際運用してみないと判明しない部分が多かったことから決定できなかった。
- ・予約機能を用いた宿泊予約やショッピング機能を用いたリサイクル品の販売及びボランティア予約機能を用いた賃金の支払等については、許可や免許の取得が必要となるので、事前調査が必要である。
- ・会員獲得のため、町づくり協議会やNPO及びボランティア団体等への操作研修を実施し、普及に努めたが、会員を確保するだけでなく、情報通信技術（ICT）をどのように利活用すれば企業や商店の収益につながるのか、どのようにすれば地域の活性化につながるのか等、利活用策についての研修も実施する必要がある。

2 自律的・継続的運営の見込み

平成20年度においては、委託期間終了後のシステム運用体制や民間移行後の検討を行ったが、実際の運用体制やシステム利用料だけで、システムの維持経費が捻出できるかどうか未確定の部分が多く、具体的な協議には至らなかった。そのため、システム運用については、公的なシステムもあることから、利用団体の運用体制が整うまでの間、市で運用することとし、まずはシステムの利活用と会員確保を図ることを先行させることとした。

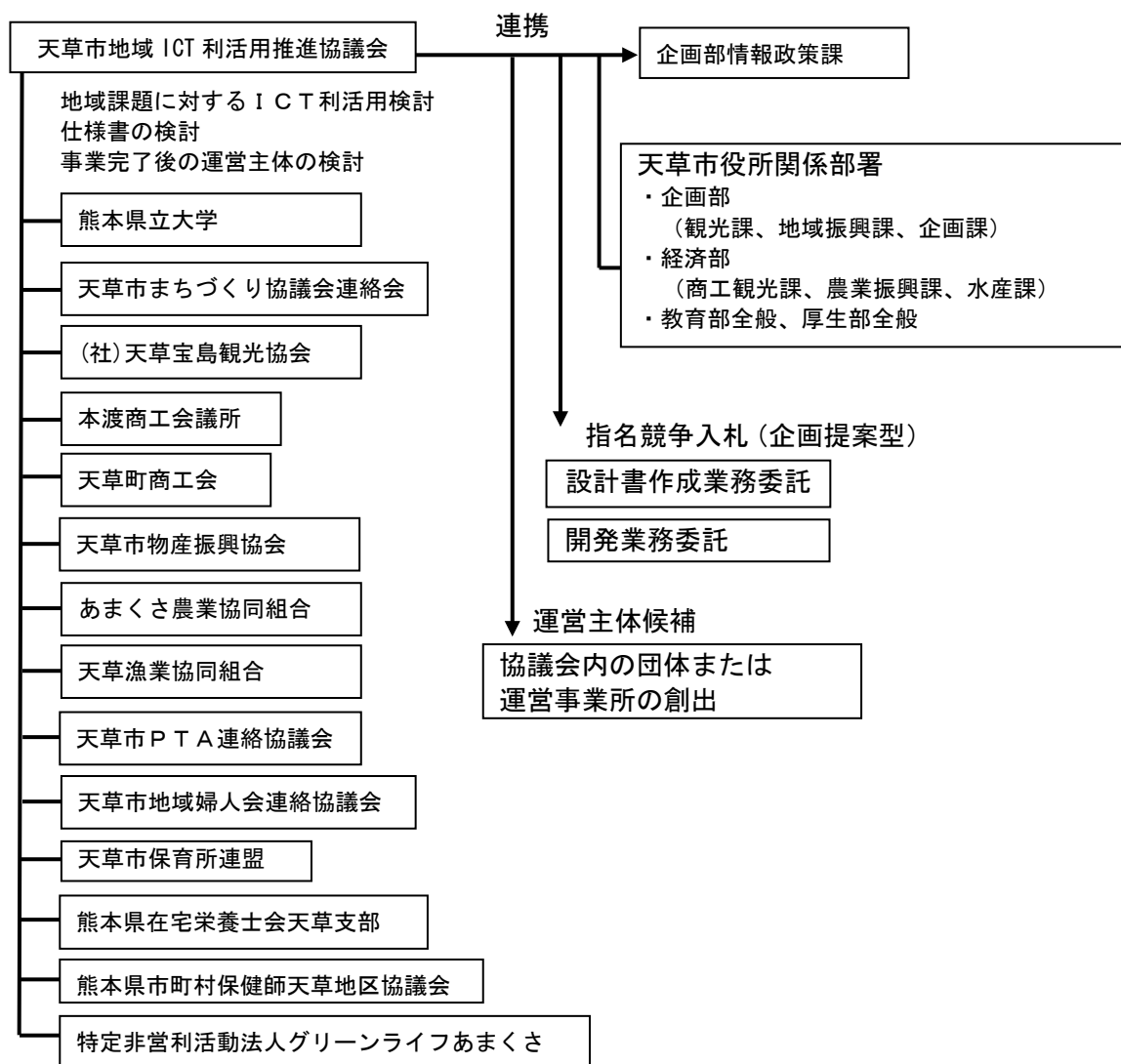
平成20年度開発したシステムが平成21年度に実稼働することから、運用体制の明確化や会員確保等が明らかになってくるので、継続運営についての協議を深めていきたい。

3 今後の展開方針

本システムは、基盤システムを組み合わせることでその地域にあったさまざまなシステムの開発が安い価格で容易に構築できることから、幾つかの自治体から利用したい旨の問い合わせがあっている。モデル事業で検討・検証した課題や解決策等を整理し、横展開ができるシステムとなるよう、今後取り組みを進める。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	熊本県立大学	ウェブアクセシビリティやユニバーサルデザイン、ICT 技術及び利活用事例など専門的な立場からの助言や調査の実施。なお熊本大学及び県立大学とは包括連携協定を結び政策研究や人的交流を行っています。
2	天草市まちづくり協議会連絡会	まちづくり協議会や地区振興会を中心とした地域コミュニティ活動充実のため、ICT の利活用について検討
3	(社)天草宝島観光協会	魅力ある観光地づくりのため、地域資源を生かした観光ルートの開発や観光客の受け入れ体制の整備などの地域課題と ICT 利活用について検討
4	本渡商工会議所	既存商店街の活性化や地場産業の育成及び企業の誘致に向けた各団体の連携と ICT 利活用について検討

No	名 称	役 割
5	天草町商工会	既存商店街の活性化や地場産業の育成及び企業の誘致に向けた各団体の連携とＩＣＴ利活用について検討
6	天草市物産振興協会	天草の特性を生かしたブランドづくりや販売ルートの確立のため、ＩＣＴ利活用について検討
7	あまくさ農業協同組合	天草の特性を生かしたブランドづくりや販売ルートの確立のため、ＩＣＴ利活用について検討
8	天草漁業協同組合	天草の特性を生かしたブランドづくりや販売ルートの確立のため、ＩＣＴ利活用について検討
9	天草市ＰＴＡ連絡協議会	親が安心して子育てできるための環境づくりや家庭・学校・地域の連携のため、ＩＣＴ利活用について検討
10	天草市地域婦人会連絡協議会	生涯学習活動や利用者代表としてＩＣＴ利活用について検討
11	天草市保育所連盟	親が安心して子育てできるための環境づくりや家庭・地域の連携のため、ＩＣＴ利活用について検討
12	熊本県在宅栄養士会天草支部	１次予防に重点を置いた保健事業充実のためＩＣＴ利活用について検討
13	熊本県市町村保健師 天草地区協議会	１次予防に重点を置いた保健事業充実のためＩＣＴ利活用について検討
14	特定非営利活動法人グリーン ライフあまくさ	都市部の人々の長期滞在や定住の誘致促進のため、ＩＣＴ利活用について検討

事業実施進行表

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H21 1月	2月	3月
協議会等設立・ 準備会合	●→								
協議会等開催		△	△	△	△	△	△	△	△
企画・設計業務 事業者決定準備	●→								
企画・設計・監 督業務		●→				●→			
		企画・設計				監督			
システム開発業 者選定						●→			
システム開発業 務							●→		
システム稼働									●→
操作研修									●→
報告書作成									●→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] <http://amakusa-web.jp>

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：熊本県天草市

代表団体名：

事業名称：地域活性化課題解決モデル「Webの駅」天草情報タワー

1 概要

① 観光ガイドシステム

天草の観光に関連する情報の配信、及び特産品のネットショップを扱うシステムを構築する。

② 商店街活性化システム

天草市内の商店に関連する情報の配信、及びネットショップを扱うシステムを構築する。

③ 田舎暮らし応援システム

天草市へのＩターン、Ｕターンを応援する情報の配信を行うシステムを構築する。

④ 保・幼・小・中学校情報共有システム

保育園・幼稚園職員と保護者の方が利用できるグループウェアシステムを構築する。すべてのユーザは会員管理され、システムにログインすることで園内、園間、園保護者間での情報共有が行える。また、システムは園用、保護者用と2つの画面から構成され、パソコンと携帯電話それぞれから利用できる。

⑤ 健康天草支援システム

天草市民の健康（子育て）に関連する情報の配信、及び相談を行うシステムを構築する。

2 運用結果

今年度はシステム構築が広範囲であるためシステムの仕様検討に時間を要し、委託期間においてはシステムの構築のみで利活用についてはこれからである。しかし、研修会においてシステムを利用した方々の意見では、今後システムを活用することで「観光ガイドシステム」の宿泊予約やネットによる天草の特産品の販売などでICTによる販路拡大により地域経済の活性化や、「田舎暮らし応援システム」による情報発信で天草への移住者の期待ができるというものであった。

3 課題・改修の必要性

今年度開発したシステムは信頼できる運用者が記事の掲載・未掲載を判断したり、記事登録を行う必要があるため、信頼できる運用者を選定するとともに、情報モラルについて教育する必要がある。

ネットショップについては、購入者と販売者の間のトラブルを想定し対応方を早急に整備する必要がある。出展店舗の精査も行う必要があるが公的な事業であるため公平性を保ちつつ、モラルある事業者へ利用してもらうルール作りが必要である。

4 その他